

地域の経済動向(令和6年4-6月期)
《道央(空知・石狩・後志・胆振・日高)地域》

1 経済動向に係る企業等の声(4~6月期)

【建設業】

- ・ アフターコロナが進む中やっと売上・利益が上向いてきたが、来期の見通しは厳しい。人手不足で仕事の生産性が低下している。社員を募集しても応募が無く採用ができない。(建設業)
- ・ ここ数年道内では大型工事が続き、砂利の需要が増加。一定の売上を保っている。(砂利採取業)
- ・ 後継者不在で従業員も高齢化が進み、事業の継続が不安。(建設業)

【製造業】

- ・ 木材需要について、家具はコロナ禍で伸長した後、低迷が続いており、内装関係は現在ニセコ・富良野等中心に需要が伸長している。欧米から輸入している木材価格が高騰する中、値上げを実施したが、これまでは値上げ前に駆け込み需要がみられたが、今回はそういった動きが無かった。(木材・木製品工業)
- ・ コロナ5類移行後、会議等もリアル開催に戻ってきており、また、観光需要も回復し、印刷物の受注も増加してきている。ただし、チラシやポスターなど商用印刷物は紙からweb、SNS にシフトしてきており、減少傾向が続く。人手不足の強まりを受けて、企業の人材募集のホームページ制作依頼が増加しており、web・ソフト開発部門の売上は増加基調。(印刷業)
- ・ 北米産ニシンの価格が上昇しており、利益は縮小傾向にある。(水産加工業)
- ・ 貝毒検査は、規制中は1回/週、規制解除後は1回/3日のペースで行うが、貝毒が何度も発生すると、3日に1回の検査では怖くて出荷をためらってしまう。(水産加工業)
- ・ 令和3年に発生した赤潮の影響等で、ここ数年は秋鮭の漁獲量が大きく低下。在庫が不足し、厳しい状況が続いている。(水産加工業)
- ・ 中国へのホタテ輸出に向けて現地の商社と調整をしていたところで貝毒が発生し、話が見送りとなった。特に昨年から例年以上に貝毒が多く発生しており、例年貝毒が発生しにくい10~3月にホタテを売るが、今回は発生を繰り返し、4月までの間で約1ヶ月間しか販売することができず悲惨な状況だった。最近は活ホタテではなく冷凍ホタテや加工品がよく売れる傾向があることや、加工品は貝毒の規制がかからないことから、加工品にも力を入れるようになった。(水産加工業)
- ・ 従業員の平均年齢は60代半ばで、高齢化が進むが、新規採用もままならず、定年を延長して、働いてもらえる間は雇用を継続している。(水産加工業)
- ・ 人手不足が深刻化する中、従業員の離職や、他社との人材の取り合いを懸念。(食料品製造業)
- ・ 廃食用油を原料としたBDF(バイオディーゼル燃料)の精製・販売を行っている。昔はコスト削減が目的だったが、今は、特に大企業が環境対策として使用するようになり、需要が高まっている。今後は、街中で集めた廃油をBDFにして街で再利用するといった「地産地消」の取組を進めていきたい。(石油製品製造業)
- ・ 従業員の確保やモチベーション維持のために、賃上げは欠かせないが、零細企業にとっては、限界があり、厳しい状況にある。(衣類製造業)
- ・ 農業資材を製造しているが、昨今の物価高により農家の購買力が低下し、需要が停滞している。(製造業)
- ・ 昨年に比べ原材料費・包装資材が約15%上昇。賃金上げの影響も大きく、商品の値上げの検討が必要。(製造業)
- ・ 今年初めてジョブキタで募集をしたが、想定以上に応募がきた。勤務日数や時間などの勤務パターンを多く掲載したり、年齢の制限を設けなかったことが良い結果に繋がった。(製造業)

【卸売・小売業】

- ・ 様々な価格が高騰する中、同業他社との競争もあり、価格転嫁が進まない。こういう状況でも、賃上げを行っていかないと、新採の確保や人材の係留が難しい。ゼロベースで仕事のやり方を変え、“稼ぐ力”の向上が必要と考えている。(建築資材等卸売業)
- ・ 道内各地への配送に関し、運送会社から運賃改定と引き取り時間の厳守などの要望を受けており、特に繁忙期に関し、顧客との交渉が急務。(建築資材等卸売業)

- ・ 昨年比で売上げはほぼ倍。利益は物価高などで倍までは行かないが、今期決算は黒字の予定。昨年度は部品価格の高騰が激しかったが、今は落ち着いてきた。（自動車販売業）
- ・ 整備士の求人をハローワークや転職サイトに出しているが、マッチングする人材が集まらない。新卒の未経験者に技術を教え、一人前にする時間と労力を割くのが現状では難しい。（自動車販売業）

【運輸業】

- ・ 貸切バスの需要は急増し、売上も伸びている。現在は、インバウンドの団体ツアーが主力で全体の売上の6割、国内客向けは、エスコンフィールドのツアーが好調。コロナ禍で従業員の3割が辞めてしまい、需要の急増に対応できず、コロナ禍前の7割程度の稼働状況。（道路旅客運送業）
- ・ JRが全席指定となり、バスの利用者が増加。物流2024年問題については、旅行企画会社など幅広い分野の方々に理解してほしい。（道路旅客運送業）
- ・ 4月からの時間外の上限規制適用後、遠隔地との運送の仕事を受けることができなくなった。当社では一次製品の運送がメインで、季節による繁忙が著しく、対応に苦慮している。（道路貨物運送業）
- ・ スケソウダラ、鮭・鱒が捕れない状況で、鮮魚輸送事業者は物価高と人件費の高騰もあり厳しい状況で近年は赤字続き。生乳の運送は、酪農家が高齢化などでやめてきており、以前は毎日運送していたが、3日に運休を1日入れるなど合理化するほか値上げの要請もしているが、充分できていない。（道路貨物運送業）
- ・ 主に生コン輸送を行っており、以前は東北の復興需要で好調だったが、コロナ禍では売上が2～3割落ち、現在も以前ほどは戻っていない。発注元には、契約金額を上げるよう依頼しているが、充分に上げてもらえず、上げてもらっても数ヶ月遅れになる状況。（道路貨物運送業）
- ・ コロナ禍で従業員の3割が辞めてしまい、現在は需要も売上げも増えているものの、従業員が不足しているためコロナ禍前の7割程度で稼働している。今までは大型免許取得者を募集していたが、今後は高卒採用も視野に入れる予定。（道路貨物運送業）
- ・ 当社ドライバーは約4分の1が女性。工場と建設現場の短い距離の往復なので、大型免許取得直後でも対応可能。工場から戻った後は、休憩時間を設け、仕事が終われば定時前でも帰宅させており、ゆとりある働き方が、従業員の定着に繋がっていると思う。（道路貨物運送業）

【サービス業】

- ・ 地域では、同業他社の新規開業や設備投資が続き、競争が激化している。インバウンド客についても国内他都市で差があり、営業的に不安定な状況が続く。行政にはレジャー需要喚起をしてほしい。（宿泊業）
- ・ 入浴料及び宿泊料は変えていないが、食材の高騰のためレストランの料金を値上げした。（宿泊業）
- ・ 観光、宿泊業に対する、就業志望度の低下を抑止するための施策、外国籍スタッフ受入れや人材派遣会社への手数料などに対する助成を検討してほしい。（宿泊業）
- ・ インバウンド需要が下支えとなり売上は大きく伸長。今後も好調の見込み。（飲食業）
- ・ コロナ5類移行後も客足の戻りが悪い。セルフオーダーシステムを導入し、接客時間を削減した分を集客活動に充てている。（飲食業）
- ・ 採用条件の緩和、待遇改善などを行っても、採用に繋がらない。近年の新卒採用には、親の意見が影響しているとのことで、会社のイメージアップや知名度向上にも力を入れている。（コンサルタント業）
- ・ 事業所の規模を拡大したことで固定費は上がったが、利益が右肩上がりで見通しも良好。新卒者の採用もできた。（サービス業）
- ・ 基本報酬の引き下げや燃料費など高騰の影響を受け、収益減が見込まれる。多くの労力が必要だが、求人を出しても、採用に繋がる応募が無く、また、従業員の離職も多いことから、人手不足が続く。（社会福祉事業）

2 道内金融機関から見た地域景況感(4-6月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

【直近の景況感】

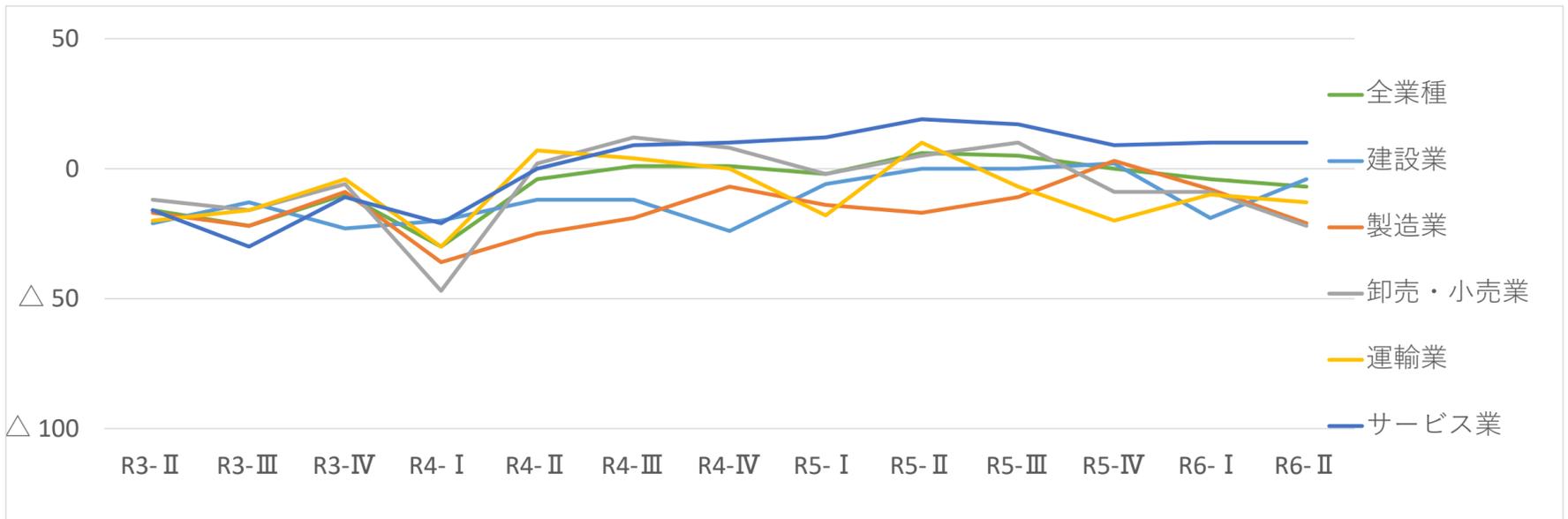
	現在の景況感			判断理由	方向感	次期見通し
	総合	生産動向	消費動向			
北海道信用金庫				今期の景気動向調査では、製造業・卸売業・小売業・サービス業で「普通」、建設業・不動産業で「やや好調」となり、全体の業況判断DIが11.5となっていることから「やや好調」と判断した。		次期の業況見通しは、建設業で「好調」、卸売業で「やや好調」となるが、製造業・小売業・サービス業・不動産業で「普通」となり、全体の業況判断DIが11.4となっていることから、今期の景況感「やや好調」と変わらないと判断した。
空知信用金庫				今期の業況判断指数(DI)は、△1.6と前期より16.2ポイント上昇し、3期ぶりに改善した。業種別に見ると製造業で横ばい、農業で下降し、他の6業種は全て前期と比べ上昇した。売上額DIは5.3ポイントと前期比で3.2ポイント上昇した。製造業が横ばいで卸売業が下降しそれ以外の6業種が上昇となっている。収益DI△7.5と前期比3.9ポイント改善し、製造業、卸売業で下降し、他の6業種はいずれも上昇している。		次期の予想業況判断指数(DI)は△1.6で、今期と変わらない業況となる見通し。業種別では、製造業、卸売業、建設業、農業で改善を見込み、サービス業、不動産業、運輸業で下降、小売業で横ばいと見込んでいる。主要指標については、いずれも前年同期比で上昇し、やや持ち直しの傾向にある。
北空知信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、生産動向、消費動向ともに改善がみられる。今年初めから続いている円安は今なお続いているが、景況の若干の回復がみられている。また米国の利下げ観測がまだ進んでおらず、エネルギーコスト等の高騰も続いていることから、一時的な回復と思われるため、総合景況感は「普通」と判断した。		サービス業(その他)のみの改善が見込まれ、その他の業種は悪化と見込んでいる。全体的なDIも13.1ポイント悪化する見通しであることから「下降傾向」と判断した。
北門信用金庫				今期の景気動向調査では、業況DIが低下したことから業況としては「やや低調」と判断。製造業で業況が低下しており、生産動向については「やや低調」、消費動向については、小売業で改善しているが、サービス業で低下しているため、「やや低調」と判断。		業況・売上額・収益判断DIが改善する見込みであり、業況は今期より上昇する見通しと判断。
伊達信用金庫				サービス業は外国人観光客の入込み状況も増加で推移しており、業況回復傾向である。製造業は原料高騰、販売価格の値上げ等、収益管理に苦慮している状況である。建設業は公共、民間工事順調な推移であり、例年並みの受注が見込まれている。以上、業況は上向きであるが、物価高騰、人手不足等経営への影響は前期同様変わっていないことから、「普通」と判断した。		新型コロナウイルス感染症から回復している業種は増加してきたが、依然として物価高騰、人手不足の影響で収益圧迫しており、当面は変わらないものと判断している。

苫小牧信用金庫				<p>今期の景気動向調査によると、業況判断指数は良いとする企業15.6%に対して、悪いとする企業は31.6%、DIは前期から20.4ポイント改善し△16.0。不動産業(横ばい)を除く全ての業種で前期比改善となった。小売業やサービス業の一部で低迷しているものの、景況感の総合評価は前期の「低調」から「やや低調」と判断した。また、生産動向・消費動向についても一部を除き改善傾向にあることから、前期の「低調」から「やや低調」と判断した。</p>		<p>同調査によると、次期については良いとする企業15.6%に対して、悪いとする企業は28.6%、DIは△13.0。今期実績に比べ3.0ポイント改善の見通しとなった。前期比及び前年同期比ともに改善見通しであり「上昇傾向」と判断した。</p>
室蘭信用金庫				<p>全業種のDIは前期比プラス5ポイントと良化、卸売業以外が前期より良化するも、建設業を除いて、前期より引き続きマイナス水準で推移しているため「やや低調」と判断した。業況は持ち直しつつあるが、依然として、原材料など仕入価格の上昇や人手不足の状況にある。</p>		<p>景況見通しについて、全業種が前期比で4ポイント上昇し、DIは△2とプラスの水準に迫っており、業種別では製造業を除く全ての業種で良化すると予想。サービス業ではプラス水準まで改善すると予想しており、「上昇傾向」にあると判断した。</p>
日高信用金庫				<p>・今期の業況DIは△17.1と、前期比14.0ポイント上昇した。DI数値は製造業を除いた業種で上昇し「やや好調」と判断した。消費動向は依然物価の高騰の影響もあり変わらず「普通」と判断する。 ・業種別の業況判断DIは、製造業△40.0(前期△25.7)、建設業△17.5(同△37.5)、卸売業△25.0(同△50.0)、小売業△7.6(同△33.3)、サービス業△3.5(同△20.0)となった。</p>		<p>次期の予想業況判断DIは△18.3と、今期実績比1.2ポイント下降の見通しにある。業種別に見ると製造業、建設業が上昇を示し、小売業、サービス業は低下、卸売業は変わらず、総合的な景況感は「変わらない」と判断した。</p>

【景況感の推移】

	R4-Ⅲ	R4-Ⅳ	R5-Ⅰ	R5-Ⅱ	R5-Ⅲ	R5-Ⅳ	R6-Ⅰ	R6-Ⅱ
北海道信用金庫								
空知信用金庫								
北空知信用金庫								
北門信用金庫								
伊達信用金庫								
苫小牧信用金庫								
室蘭信用金庫								
日高信用金庫								

3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I	R5-II	R5-III	R5-IV	R6-I	R6-II
全業種	△ 16	△ 22	△ 10	△ 30	△ 4	1	1	△ 2	6	5	0	△ 4	△ 7
建設業	△ 21	△ 13	△ 23	△ 20	△ 12	△ 12	△ 24	△ 6	0	0	2	△ 19	△ 4
製造業	△ 17	△ 22	△ 9	△ 36	△ 25	△ 19	△ 7	△ 14	△ 17	△ 11	3	△ 8	△ 21
卸売・小売業	△ 12	△ 16	△ 6	△ 47	2	12	8	△ 2	5	10	△ 9	△ 9	△ 22
運輸業	△ 20	△ 16	△ 4	△ 30	7	4	0	△ 18	10	△ 7	△ 20	△ 10	△ 13
サービス業	△ 16	△ 30	△ 11	△ 21	0	9	10	12	19	17	9	10	10

4 各種経済指標

